

小学校

平成 12 年 度

教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

平成12年度

教育研究員名簿

| 分科会 | 地区 | 学校名 | 氏名 | 分科会 | 地区 | 学校名 | 氏名 | |
|-----|-----|--------|--------|--------|-------|-------|--------|--------|
| 中学 | 千代田 | お茶の水小 | 栗原由紀子 | 学年 | 杉並 | 松ノ木小 | 川村 守 | |
| | 文京 | 礫川小 | 射水 博子 | | 北 | 王子第三小 | ◎石塚 裕幸 | |
| | 江東 | 南陽小 | 渡辺 弘美 | | 狛江 | 狛江第六小 | 船迫 隆幸 | |
| | 世田谷 | 桜小 | 島田 学 | | 御蔵 | 御蔵島小 | 宮崎 直人 | |
| | 小学 | 江戸川 | 西一之江小 | 原田 英徳 | 第六学年 | 江東 | 川南小 | 柄澤 武志 |
| | | 府中 | 四谷小 | 長谷川善夫 | | 板橋 | 赤塚小 | ○武石 俊一 |
| | | 清瀬 | 清瀬第四小 | 中嶋 都 | | 練馬 | 石神井東小 | ○矢島 直行 |
| | | 多摩 | 竜ヶ峰小 | 松田 一枝 | | 足立 | 中島根小 | 蓮沼 勉 |
| | | 瑞穂 | 瑞穂第一小 | ○加藤 淳史 | | 葛飾 | 飯塚小 | 河野久美子 |
| | | 八丈 | 檜立小 | 會田 聡 | | 八王子 | 第一小 | 山木さゆみ |
| 第五 | 大田 | 入新井第二小 | ○尾上 健二 | 昭島 | 成隣小 | 金田 奈穂 | | |
| | 世田谷 | 駒繫小 | シルバ智子 | 小平 | 小平第六小 | 植村 恵子 | | |
| | 杉並 | 荻窪小 | 丸山 晃 | 日野 | 日野第二小 | 後藤 健夫 | | |

◎ 全体世話人 ○ 世話人

担当 東京都立教育研究所企画調査部指導主事 鈴木 義昭

目 次

| | | |
|--------------|--------------------------------------|----|
| I 社会科共通主題 | 社会科で身につける力を明確にした教材開発のあり方 | |
| II 研究主題 | | |
| 1 中学年分科会 | 地域の見方や考え方を深めるための教材開発の工夫 | 2 |
| 2 第5学年分科会 | 児童が社会的事象の意味を確かにとらえる ことのできる教材開発の工夫 | 10 |
| 3 第6学年分科会 | 一人一人が社会的事象を多面的にとらえられる 教材構成の工夫 | 17 |
| III 研究の成果と課題 | | 24 |

＜概 要＞

- 我が国の社会は国際化・情報化・科学技術の発展・環境問題への関心の高まり・高齢化・少子化等さまざまな面で大きく変化しており、今これらの変化を踏まえた新しい教育の在り方が問われている。これからの教育の在り方として、特色ある教育を展開しつつ児童に「生きる力」を育てていくことが大きな課題である。そのため自ら学び自ら考える力の育成・教科で身につける力（基礎基本）の明確化・国際社会に生きる日本人としての自覚の育成等に重点をおいた学習の改善が図られていかなければならない。
- 現在の社会科学習では、課題について調べる活動や体験する活動にとどまっていることも多く、社会的事象について考えるという力が十分育っていない。これは、社会科で身につける能力資質についての捉え方が不明瞭であったり、児童につかませたい内容や事象を構造化して教材化することが不十分だったりしているためであると考えられる。そこで児童が確かな事実理解に基づいて社会的事象の意味を考え、自分と社会的事象との関わりについての理解を深めることのできる教材開発の工夫が必要である。
本研究では、社会的事象の意味をどのように教材化し、構造化して指導計画に位置づけていけば、その理解を図ることができるかを中心的な課題とし研究を進めた。
- 社会科共通研究主題を設定し、それを基調として3つの分科会がそれぞれの研究主題と仮説を設定した。各分科会では先行研究に学びながら、授業実践を通して仮説の検証を行い、研究主題に迫るよう努めた。

地域の見方や考え方を深めるための教材開発の工夫

I 主題設定の理由

小学校の社会科は、社会生活を広い視野からとらえ、総合的に理解することを通して、公民的な資質の基礎を養うことを究極的なねらいとしている教科である。

ここにあげられている“総合的に理解する”とは、学問的な知識を詰め込むことではない。中学年の社会科に置きかえて述べるなら、地域において実際に展開されている社会生活や社会的事象の特色や相互の関連について考えたり、自分とかがかわらせながら判断したりする力を身につけさせることだと考える。そこで私たちは、中学年の社会科で身につけさせたい力を『地域の社会的事象の意味や働きなどを自分にかかわらせながら考える力』と、とらえた。さらに、こうした力を身につけさせるためには、まず社会的事象を構成する具体的な事実を丹念に読みとり、それらをもとにして地域の見方や考え方を深めていくことが重要であると考え、上記のような研究主題を設定した。

本研究は当初、児童の見方や考え方の深まりの過程を

事実としてみる → 関連づける → 自分なりに意味づける

ととらえ、それを深める手だてを探ることからスタートした。一学期、各々の実践の中に「多様な思考をうながす教材や学習活動の工夫」や「人々の工夫や努力、願いに触れる教材の開発」を取り入れることで、一つ一つの事象を結びつけながら考える児童の姿には迫ることができた。しかし、一方でそれは表面的理解にとどまり、自分にかかわらせて考えたり、自分も地域の一員であると考えたりするまでには、深まっていないのではないかという反省があげられた。

そこで、再度研究の方向について議論した結果、今までの研究は、どのようにしたら見方が深まるかといった方法的な面に重点が置かれ、児童の郷土意識や「地域観」の形成といった、いわば社会科の目標にかかわる面が軽視されていたのではないか。児童に培いたい「地域観」を明確にしなければ、真の意味での見方や考え方の深まりとは言えないのではないか。という結論に達した。そこで私たちは、児童に培いたい「地域観」を明確にした教材の開発を行うことで、地域の見方や考え方を深め、地域の一員としての自覚を育てていくこととした。

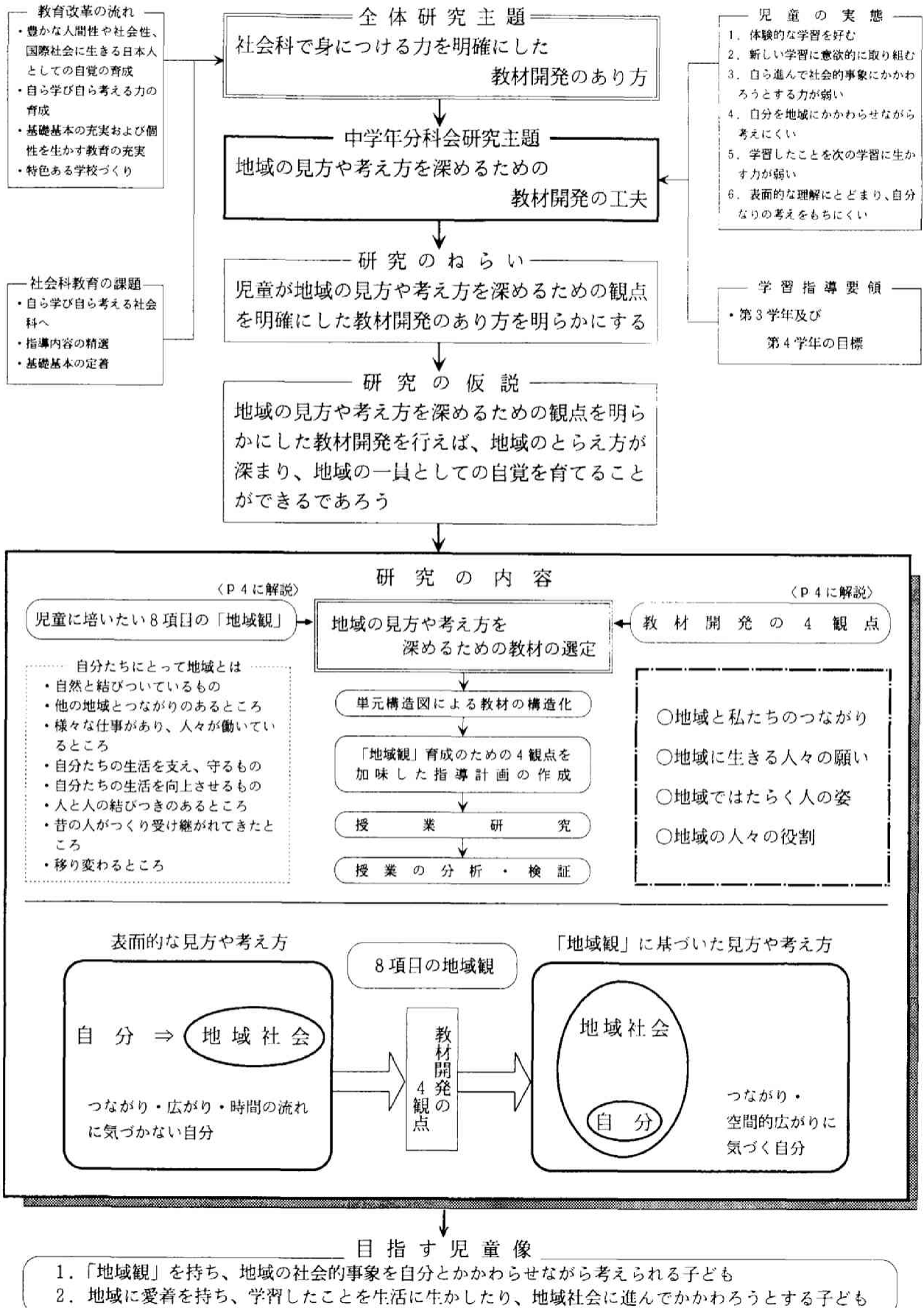
II 研究のねらい

児童が地域の見方や考え方を深めるための観点を明確にした教材開発のあり方を明らかにする。

III 研究の仮説

児童が地域の見方や考え方を深めるための観点を明らかにした教材開発をおこなえば、地域のとらえ方が深まり、地域の一員としての自覚を育てることができるであろう。

IV 研究構想図



V 研究内容

1 児童に培いたい「地域観」の選定

(1) 「地域の見方や考え方の深まり」と「地域観」のとらえかた

近年、少子化、核家族化、それにともなう価値観の多様化などを背景に、地域社会と家庭、地域社会と児童の距離が広がり、「地域社会において人々と協力し合って生活している」という意識が希薄になっているように感じられる。そのため、児童にとって身近であるはずの地域社会が、そうとは認識されず、地域の一員としての自覚が育ちにくくなってきていると考えられる。そこで、後述する4観点を通した教材開発を行い、地域の人々の営みや社会的事象の意味を学ばせることで、自分が地域社会とどのようにかかわりあっているのか考えさせ、地域社会に対して主体的にかかわっていかうとするような地域の見方や考え方を培いたいと考えた。

さらに、こうした地域の見方や考え方を培うためには、児童の中に「自分たちにとって地域社会とはどのようなものか」という考え方、心の構えを持たせることが大切なのではないかと考えた。本研究では、これを「地域観」ととらえ、この「地域観」が児童の中に培われたとき、「地域の見方や考え方」が深まったと考えることとした。

(2) 中学年社会科で培いたい「地域観」

社会科学習において培われた「地域観」が児童の価値観として機能しだし、「地域の一員としての自覚」や「地域への愛情」に高められたとき、社会科の目指す「公民的資質の基礎」が培われたと考えられる。そのためには、各単元の学習において、その単元の学習を通じて培いたい「地域観」を明確にし、意図的、計画的に働きかけていく必要がある。

そこで本研究では、学習指導要領の目標や内容、先行研究、児童の実態などから、中学年社会科で培いたい8項目の地域観を選定し、児童が各単元を通して迫っていくようにした。

自分たちにとって地域社会とは

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| ・自然と結びついているもの | ・様々な仕事があり、人々が働いているところ |
| ・他の地域とつながりのあるところ | ・自分たちの生活を支え、守るもの |
| ・自分たちの生活を向上させるもの | ・人と人の結びつきのあるところ |
| ・昔の人がつくり、受け継がれてきたところ | ・移り変わるところ |

2 「地域観」を培う「教材を開発する4つの観点」の設定

具体的な学習の素材から児童の「地域観」を培うことができるような「教材」を構成するためのポイントを「教材開発の観点」とし、どの「地域観」に迫るのにも不可欠な要素と考えられるものを4つ設定した。ここでいう「教材」とは、様々な要素をもつ社会的事象（素材）を、学習のねらいを達成するために再構成したものを指している。

このような「教材開発の観点」を設定することにより、地域や児童の実態から「取り上げるべき教材」をある程度はっきりさせることができ、さらに地域社会の社会的事象を生き生きととらえることができると考えた。

教材開発の4つの観点

A 地域とわたしたちのつながり

自分と地域社会の事象や人々とのつながり、他の地域と自分たちのつながりを考えることによって、自分も地域社会の中で人々と共に生きていくと気づく教材

B 地域に生きる人々の願い

生活をよりよくしたいという地域社会に生きる人々の願いが伝わる教材

C 地域で働く人の姿

地域で働く人々の思いに寄り添って理解できる教材

D 地域の人々の役割

人々は地域社会の中でそれぞれに役割を担っており、責任を果たしていることに気づく教材

3 「地域観」「教材開発の4つの観点」を織り込んだ指導計画の作成

指導計画を作成する際は、まず、各単元において「迫りたい地域観」を設定し、それを念頭に置きながら学習素材を収集する。さらに「教材開発の4つの観点」に沿って学習素材を整理する。このように二つの方向から「教材」を構成することによって「取り上げるべき教材」がうかびあがってくる。この教材をもって学習活動を展開していくことによって、児童が「地域社会の中で生きていく」と感じ、「地域とは自分たちにとってどのようなものであるか」という自分なりの「地域観」を持つことができると考えた。このような学習を年間を通して行っていくことによって地域の一員としての自覚や地域への愛着を持つことができると考えた。

地域の見方・考え方を深める教材開発

「火事からくらしを守る」の事例

| | 地域とは生活を支え、守るもの | 地域とは人と人の結びつきがあるところ |
|----|--|--|
| 素材 | <ul style="list-style-type: none"> 学校には消火栓や非常扉が決められた位置に設置されている。 110番通報から5分以内で消防車が現場に到着する。 消防士の人々は、常に厳しい訓練をしている。 火災時には救急隊員、ガス会社、電力会社、警察なども現場に駆けつける。 | <ul style="list-style-type: none"> 地域の空手の先生が消防団員である。 消防団は自分たちの町は自分たちで守るという目的でつくりだされている。 消防団の人々は自分の仕事が休みの時、様々な訓練を受けている。 消防団の人々は日頃から地域の見回りや地域のイベントに参加している。 |

(この素材はあくまで代表的な例)

| | 地域とは生活を支え、守るもの (取り上げる教材) | 地域とは人と人の結びつきがあるところ (取り上げる教材) |
|---|--|--|
| A | 防火と自分たちの生活のつながり (防火施設の設置箇所、使い方) | 防火と地域の人々のつながり (消防団員の構成) |
| B | 火災を防ぎ、生命を守ろうとする人々の願い (消防士の人々の使命感) | 地域を自分たちで守ろうとする人々の願い (消防団設置の意味、消防団の人々の使命感) |
| C | 火災を防ぎ、生命を守る人々の姿 (消防署の勤務のしくみ、訓練の様子、消火活動の様子、装備や設備の工夫) | 地域を自分たちで守る人々の姿 (消防団の仕事、訓練の様子) |
| D | 防火活動に携わる人々の役割 | |
| | (火災現場の様子、火災の発生から消火までの過程、関係諸機関の動き) | (消防団の火災現場での役割、消防士との協力の様子) |

VI 実践事例① 「多摩に文化をはこんだ人」(13時間)

1 単元で培いたい「地域観」

- ・自分たちの生活を向上させるもの。
- ・昔の人がつくり、受け継がれてきたところ。

2 単元の目標

地域の文化の向上に尽くした相澤五流・伴主の業績を具体的に調べ考えることを通して、

- ・地域の人々の願いや努力が生活を向上させたこと
- ・地域の文化が現代の人々によって受け継がれていくことを理解し

「地域観」を培い、地域に対する誇りと愛情を育てる。

3 「地域観」と4観点のつながり

| | 地域とは自分たちの生活を向上させるもの(教材) | 地域とは昔の人がつくり、受け継がれてきたところ(教材) |
|-----------|--|---|
| A つながり | 五流・伴主と多摩の人々のつながり (五流の絵の残る地域・伴主の弟子のいた地域) | 五流・伴主と現代の地域とのつながり (墓に残る碑・現代五流や伴主を研究する人々) |
| B 願 意 | 文化にふれ、育てることでより心豊かな生活をしたいという人々の願い (五流・伴主・多摩の人々の願い) | (現代五流や伴主を研究する人々の願い) |
| C 姿 | 文化を人々に広めようと努力する人々の姿 (五流・伴主、多摩の人々の文化を広める具体的な姿) | (現代五流や伴主を研究する人々の文化を伝える姿) |
| D 役 割 | 文化を支え、伝えていこうとする人々の役割 (文化を伝える五流・伴主の具体的な活動、支えていこうとする多摩の人々の具体的な活動) | 郷土の文化を伝える人々の役割 (現代五流や伴主を研究する人々の思い) |

4 学習指導計画 全13時間

| 過程 | 学習のねらい | 教材開発の観点 | | | | 取り上げる教材 | ○主な活動 *学習問題 | 「地域観」にせまる 児童の言葉など |
|-------------|--|---------|---|---|---|---|---|---|
| | | A | B | C | D | | | |
| つ か む | 郷土の文化人である相澤五流と伴主の存在を知り、関心をもち調べてみようとする意欲を持つ。 ……1時間 | ◎ | ○ | | | ・五流・伴主の墓にある碑やそれが置かれている理由を語る人 | ○「墓と2人の業績を書いた碑」 「なぜ碑が置かれたのか説明をする教育委員会の人」を写したビデオを見て、郷土の文化人として取り上げられている五流・伴主の存在を知り、学習問題をつくる。 *五流・伴主のことを調べ物語をつくろう! | <知りたいこと> ・この人の絵はどこにあるのか。 ・2人はほかの絵もかいたのかな。 ・絵はどのくらいうまいの。 |
| 調 べ る | 物語をつくるための計画や方法を話し合う。 ……1時間 | ◎ | ○ | | | ・江戸の文化を吸収した五流・伴主 ・「五流や伴主の業績」 ・「生花や絵をかざること」を求めた多摩の人々 | ○五流と伴主についての情報をひろげる。 *どうしたら物語はできるかな。 ○物語を作るためにはどんなことを調べる必要があるか、またどのような方法で調べるといいか話し合い、物語の柱となる登場人物を考える。 | <どんなことを調べるか> ・2人の絵を詳しく調べる。 <どうやって調べるか> ・教育委員会の人に聞く ・(絵など) <u>そういうものがある所に行く</u> ・ <u>近所の人から聞く</u> 。 |
| | 五流の作品や業績を通して、その背景にある人々の願いや努力に気づく。……4時間 | | ◎ | | ◎ | ・五流の絵が残る場所 ・常楽寺阿弥陀堂の天井画 | *五流さんの絵を見にいこう! ○五流の修行時代のことや作品の残る地域を知り、多摩の人々のつながりを考え、見学の準備をする | <五流さんの気持ち> ・ <u>ずっと残るものだから、しっかり絵をかく。</u> (受け継ぐ) ・この絵がいつまでも残りますように。 |

| | | | | | |
|---|--|------|--|---|--|
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> ○寺に残る絵を見学しに行き、五流の業績を知る ○絵を見た感想を話し合い、五流とその弟子たちの願いや多摩の人々の願いを考える。 | <p><村の人の気持ち></p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵を大切にしよう。(受け継ぐ) ・暗い気持ちの時に見れば、明るい気持ちになるかも。(生活の向上) |
| 調 | 伴主の業績を通してその背景にある人々の願いや努力に気づく。 ……2時間 | ◎○ | <ul style="list-style-type: none"> ・生花の良さや楽しさを語る人 ・生花をひろめる手段の「允中挿花画」 ・允中流の創始の意味 | <ul style="list-style-type: none"> * 伴主さんはどんな人? ○生花の体験をしながら、多摩の人々が求めた生花がどのようなものか知り、人々の願いを考える。 ○伴主の修行の様子や「允中挿花画」をつくった過程や伴主の教え・稽古の方法を知り、どのように允中流をひろめたか、また伴主の活動が多摩の人々にどのような影響を与えたかを考える。 | <p><伴主さんの気持ち></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生花を広めたら村の人が知ってうれしい。 ・教えてほしい人はどんどん行くよ。(受け継ぐ) <p><村の人の気持ち></p> <ul style="list-style-type: none"> ・花が好きだから広めてくれてうれしい。 ・生花をうちの部屋にも置きたいな。(生活の向上) |
| べ | | ○◎ | <ul style="list-style-type: none"> ・伴主の出張稽古をした範囲 | | |
| る | 地域の文化を世に出したいという人々の願いを考える。 ……2時間 | ○◎◎◎ | <ul style="list-style-type: none"> ・「調布玉川惣画図」を出版するまでの人々の努力や協力をおさえた話 ・出版しようとした人々の願い | <ul style="list-style-type: none"> * お宝発見!?「調布玉川惣画図」 ○「調布玉川惣画図」を見て、当時の人がどのような気持ちでこの絵を見たか考える。 ○「調布玉川惣画図」ができるまでの人々の協力や努力をパネルシアターを通して理解し、なぜ人々は協力して「調布玉川惣画図」をつくったのか人々の願いを考える。 | <p><協力した村の人の気持ち></p> <ul style="list-style-type: none"> ・有名な五流さんと伴主さんの絵だから、みんなで協力して出版させてあげよう。ア ・五流さんと伴主さんの地図が見られるなら手伝おう。いい本ができるといいな。ア |
| ま | 五流と伴主の業績を自分なりの言葉でまとめる。 ……3時間 | ○◎◎◎ | <ul style="list-style-type: none"> ・五流・伴主の研究をしている方々の文化を伝えようとする思いや姿 | <ul style="list-style-type: none"> ○調べてつかんだことを整理し物語をつくる。 ・わからないところは、研究している方に聞きに行ったり、図書館へ行ったりして調べる。 ・途中で研究している方にアドバイスをしてもらう。 | <p><感想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・広めるというのは、みんなに(いろいろな人に)教えてあげる事だと思う。A ・あーんすごい五流さんと伴主さんが多摩にいらなんて感動するなー。イ |
| と | | | | | |
| め | | | | | |

5 考察

最初の段階では「地域観」にせまる言葉としてあげられるのは、地域の人・ものを指す言葉だけであるが、具体的に五流・伴主の業績を調べる学習に入ったあたりから、「生活の向上」や「受け継ぐ」ということに近づく言葉が児童からできるようになった。さらに学習が深まるにつれ、多くの児童が、アのように、人々がつながりをもって「生活を向上させている」姿や、イのように「受け継がれてきた」ことを語るようになった。このようなことから「教材開発の4つの観点」にそった教材が有効に働き「地域の見方や考え方」が深まったといえると考えられる。

また、物語づくりでは指導者の意図を超えて、分担されたストーリーの中に自分たちを登場させて、愛情をもって150年前の人物を語る児童が多かった。このことは「地域観」に基づいた見方や考え方をするようになったことの表れであると考えられる。

Ⅶ 実践事例② 「私たちの暮らしと買い物」

1. 単元で培いたい「地域観」

- ・自分たちの生活を支え、守るもの
- ・他の地域とつながりのあるところ
- ・自分たちの生活を向上させるもの
- ・様々な仕事があり、人々が働いているところ

2. 単元の目標

自分たちの住んでいる清瀬には販売に関する仕事があり、それらは・「生活を支えているものであること」・「販売・消費を通し地域や他地域とのつながりを持つものであること」・「販売に携わる人々や買い物をする人々には様々な願いや工夫や役割があること」を資料や見学・観察から調べ特色や関連を考える中で地域観を培い、地域の一員としての自覚を育てる。

3. 「地域観」と4観点のつながり

| | 自分たちの生活を支え、守るもの | 自分たちの生活を向上させるもの | 様々な仕事があり、人々が働いているところ | 他の地域とつながりのあるところ |
|-----------|--|-----------------|----------------------|---|
| A つながり | 自分たちとスーパーマーケットとのつながり (家族が買い物によく利用する店) | | | 地域にあるスーパーマーケットと他の地域のつながり (商品の仕入先、産地) |
| B 願い | 買い物をする地域の人々の願い (買い物をするときの店選びの理由・ 買い物をするときの心がけ、失敗) | | | |
| C 姿 | 買い物をする人々の願いを実現するために働くスーパーマーケットの人々の姿 (よりよい商品を提供しようとする働く人々の具体的な姿) | | | |
| D 役割 | 買い物をする人々の願いに応えるスーパーマーケットの仕事の工夫 (消費者の願いに応える働く人々の役割) | | | |

4. 学習指導計画全 21時間

| 過程 | 学習のねらい | 開発の観点 | | | | 取り上げる教材 | ○主な活動 *学習問題 | 「地域観」にせまる児童の言葉など |
|------------|---|-------|---|---|---|---|--|--|
| | | A | B | C | D | | | |
| つかむ 3時間 | 自分や家族の買い物経験について話し合い、買い物調べの結果から買い物の様子をつかむ。 (3時間) | ◎ | | | | ・買い物によく利用する店 | ○買い物調べを1週間する。 「どこで」「どんなもの」「工夫」について調べる。 *家の人はどんな店で、どんなものを買っているのだろうか。 ○買い物調べの結果をグラフにまとめ、グラフからクラスの買い物の様子を考え、学習問題を作る。 *どうしてみんなが、スーパーマーケットに行くのか、ひみつをさぐろう。 | 買い物調べでは、ほとんどの家がスーパーで買っていることに気づいた。 「安い、近い、品物が揃っている。」 |
| 調べる | 買い物をする人の願いが、スーパーマーケットの販売の工夫に生かされていることに気づく。 (5時間) | ○ | ◎ | | | 買い物をする時の理由 スーパーマーケットの施設・設備 | ○なぜ、スーパーマーケットを利用するのかを、買い物調べカードの「工夫」欄から予想し、確かめに行くための見学の計画を立てる。 ○第1回買い物探検 | 「食べ物が腐らないように、温度管理をしているよ。」「ゴミが増えないように野菜は裸で売るよ。」「いろいろな品物があって便利だよ。」 |
| | スーパーマーケットで売られている商品が、他地域とつながっていることに気づく。 (2時間) | ◎ | | | | 商品の仕入先・産地 | ○広告や段ボールから商品の仕入先・産地を調べ、地図に表し、他地域とのつながりを考える。 | 店内の段ボール箱の産地名に気づいた。 「どうしてよそから品物を買うんですか。」 |
| 15時間 | 写真によってスーパーマーケットの人と出会い、見学・取材を通して働く人の願いに気づく。 (6時間) | | ◎ | ◎ | | 注文を受けてから魚をさばく、鮮魚担当Aさんのこだわり 肉の安全に気を配る精肉担当Bさん 売れ筋1位のあんパンのおいしさを守るCさん | ○スーパーマーケットで働く人の写真を見て、どこでどんな仕事をしていた人が考える。 *どんな人が働いていたのでしょうか。どんな仕事をしていたでしょう。 ○働く人に注目したスーパーマーケット見学の計画を立てる。働く人の「願い」「喜び」「工夫・努力」を視点とする。 ○第2回買い物探検 *働く人のひみつをさぐろう。 ○調べたことを、顔写真のはった模造紙の下に書き込んでいき整理する。 ○模造紙などから、働く人の願いを話し合う。 | 「商品を新鮮なうちに食べて欲しいそうです。」「おいしいのは、○○さんが、がんばっているからだ」と感じました。 「寒い冷凍庫でがんばっているのが驚きました。」 「店長さんやお店の人にお礼の手紙を書きたいな。」ア |

児童が社会的事象の意味を確かにとらえることのできる教材開発の工夫

I 研究主題設定の理由

5年生の社会科では、わが国の産業と国民生活との関わり、国土の様子についての理解を通して、国民生活の維持と向上、産業の発展に関心をもち、国土に対する愛情を育てることをねらいとしている。このねらいを達成するためには、児童一人一人が社会的事象を確かに理解し、調べたことをもとに社会的事象の意味を考えることが必要であると考えた。しかし、追究したり、わかったことを表現したりする活動に比べると、調べたことから社会的事象の意味を考える学習場面は少ない傾向にあると思われる。

そこで、児童が自ら進んで課題を追究したり、自分の生活との関わりをもとに社会的事象の意味を考えたりするために有効な教材の開発が必要であると考え、本研究主題を設定した。

II 研究の内容

○教材化の視点について

社会的事象の意味を考えるために、学習の中で取り上げる事実を丹念につかむことが必要である。確かな事実認識をもたせるために次の3つの視点により教材化していくことにした。

1 児童とのつながり 2 産業に従事する人々の工夫や努力 3 国民生活を支えている

1 なぜ「児童とのつながり」なのか

意欲的に学習を展開するための課題意識を高めたり、自分の生活との関わりについて考えたりするためには、より身近に感じられる（つながりのある）素材を教材化することが大切であると考えた。「知っている」「見たことがある」「使っている」「自分とつながりがある」等の視点をもつ教材は、児童にとって興味がわき、意欲的に調べることができると考えた。だから「児童とのつながり」という視点を設定した。

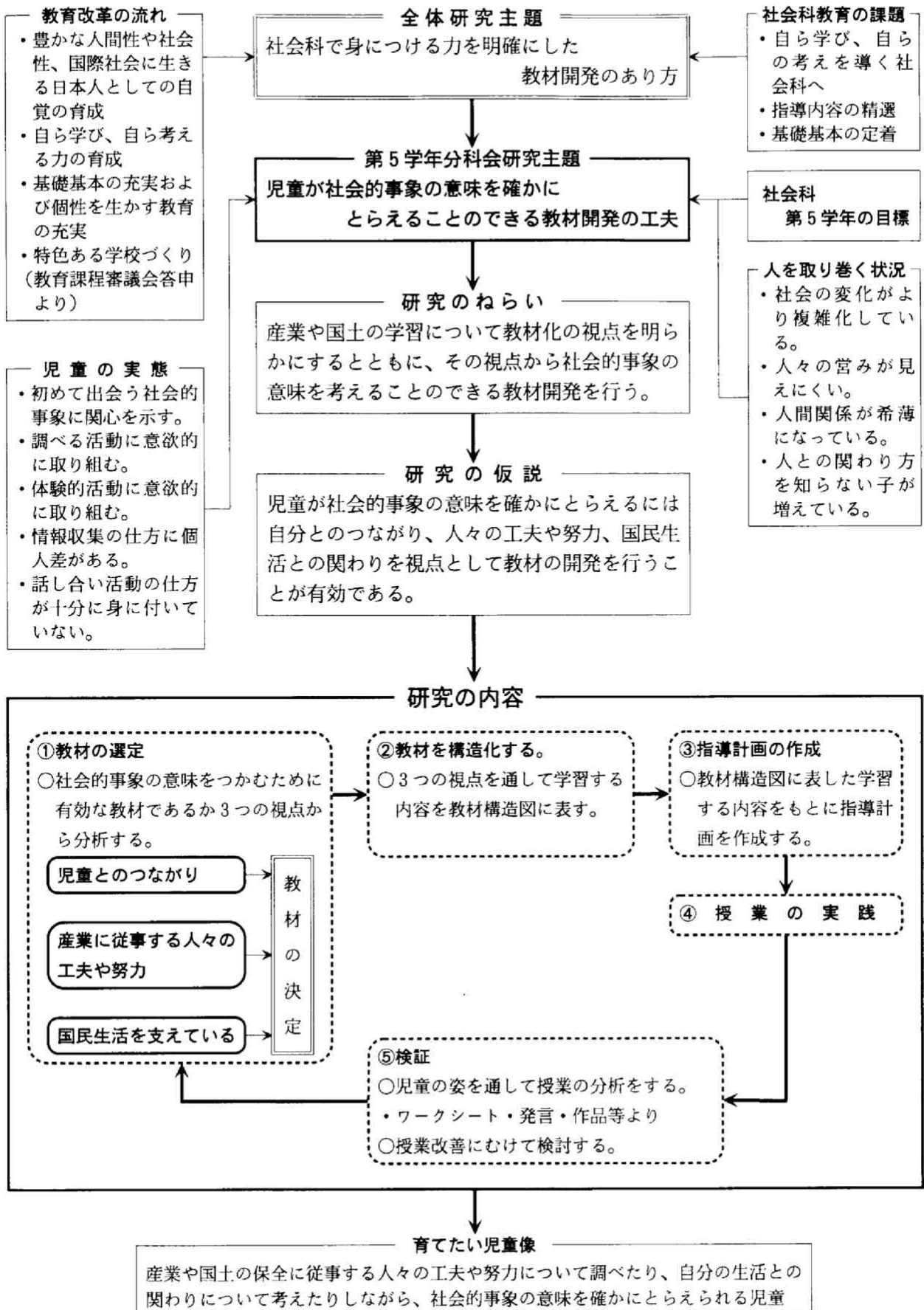
2 なぜ「産業に従事する人々の工夫や努力」なのか

産業の発展を願ったり、国土に対する愛情を深めたりするためには、産業に従事する人々の活動の様子を理解し、工夫や努力について児童が自らの考えをもつことが大切である。また働く人の生き様は児童の心に訴える力が強い。だから「産業に従事する人々の工夫や努力」という視点を設定した。そして、この視点を高い生産性、より高品質、安全・環境への配慮、消費者のニーズなどの点から具体化しながら学習内容を検討した。

3 なぜ「国民生活を支えている」なのか

「国民生活を支える」という視点をもつことにより、自分とのかかわりだけでなく、より広い視野から考えることができ、個々の事実間のつながりが理解できる。そこで「国民生活を支える」ことを具体的に理解するために外国との関係（輸出、輸入）、産業で生産されたものを運ぶこと（運輸に関わること）、国民生活にとっての価値などの視点を設け、学習内容を検討した。

Ⅲ 研究構想図

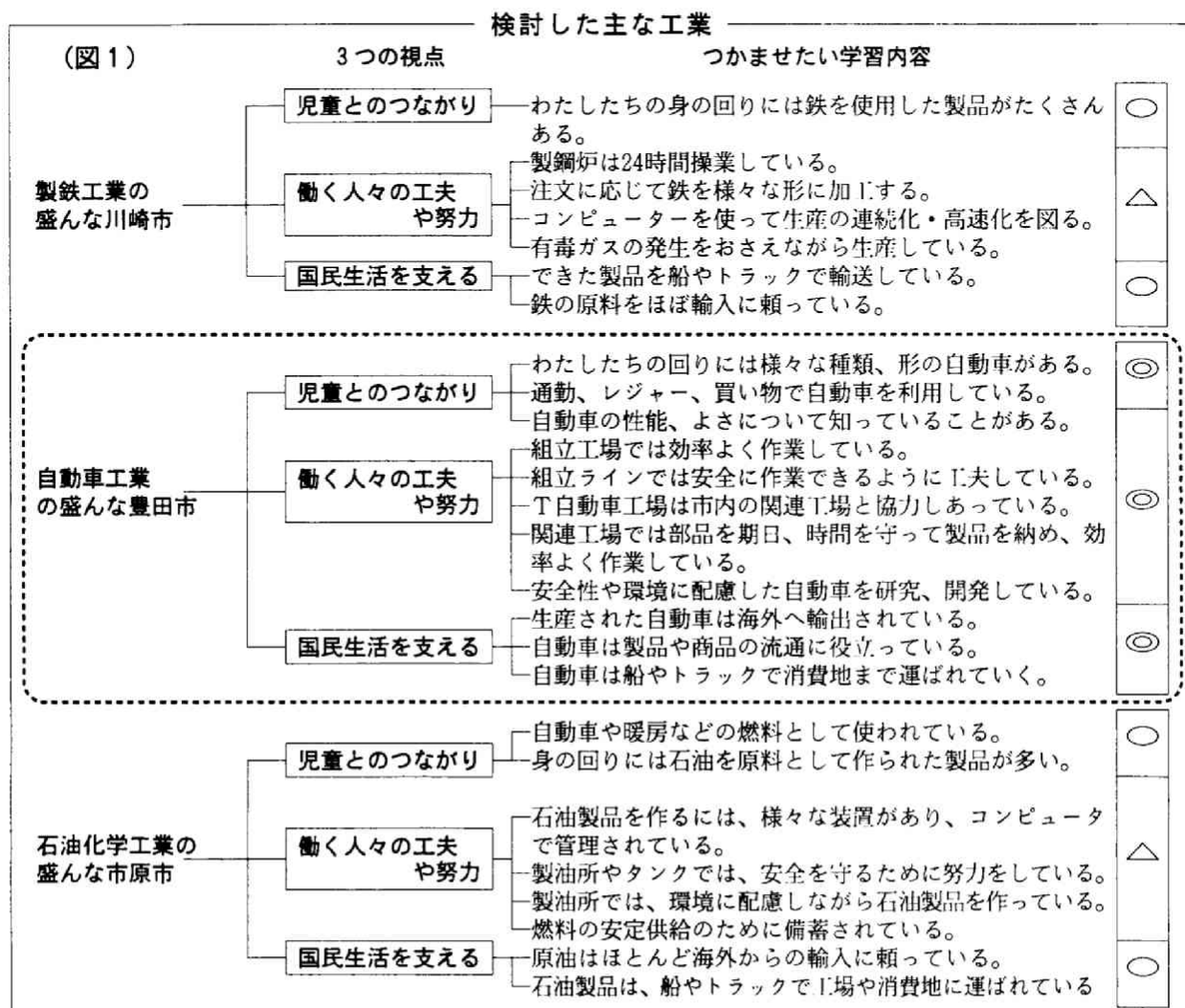


IV 教材化へのプロセス

1 教材の選定について

以下の図は、前述した3つの視点をもとに、つかませたい学習内容を抽出し、工業単元においてどの教材を選定したかを表したものである。つかませたい学習内容は、教科書、資料集、パンフレットなどの記述から抽出した。実際の学習において、どの事例地を扱うかについては見学の可否、資料収集活動のしやすさなどをもとに選定した。3つの視点をもとに抽出したつかませたい学習内容から、社会的事象の意味を考えるのにより有効であると思われる教材を検討した結果、A校では「自動車工業のさかんな豊田市」を教材として選定した。その主な理由は以下の3点である。

- 自動車生産日本一のT自動車会社は自分たちの生活と関わりがあり、コマーシャル、広告などで知っている。
- 働く人々の工夫や努力をT自動車会社のビデオ視聴や、インタビュー等によりとらえやすい。
- 課題を追究するための資料をT自動車会社、および学校のそばの販売店から収集しやすい。



3つの視点をもとに抽出したつかませたい学習内容が社会的事象の意味を考えるときに、児童にとってより効果的な内容か検討した結果を◎、○、△で表し、選定の基準とする。

このようにして選定した教材を教材構造図(図2)に表していく。

2 教材構造図 (図2)

自動車工業の さかんな豊田市

<中心概念>

自動車の生産に携わる人々は消費者のニーズに応え、大量で多様な製品を生産するために、生産の仕組みを整えたり新しい技術の開発に努めたりしている。

※この教材構造図をもとに指導計画 (図3) を表していく。

教材構造図作成の手順

指導要領の目標をうけて中心概念を明らかにする。

中心概念を形成するために、欠かすことのできない社会的事象の意味を明らかにする。

教材選定の際に抽出したつかませたい内容を社会的事象の意味と関連づける。

つかませたい学習内容を理解するための事実を教科書、資料集、パンフレット等の資料から抽出する。



3 指導計画作成（図3）・「自動車工業のさかんな豊田市」の実践

児童にとって身近なもの、自分とのつながりのあるものから学習をはじめるとは具体的でわかりやすいと考えた。そこで教材構造図に表したつかませたい学習内容の「つながり→工夫・努力→支えている」という大まかな順序で学習を構成することが有効であると考え指導計画を作成した。

| | ねらい | 教材開発の視点 | | | つかませたい 学習内容 | 主な学習活動 | ※支援・□資料 | 児童の感想・考え | |
|--------|--|---------|------|-----|--|---|--|---|--|
| | | つながり | 工夫努力 | 支える | | | | A 児 | B 児 |
| 1 | ○わたしたちのまわりには数多くの種類の車があり、日常生活で幅広く利用されていることに気づく。 | ◎ | | ○ | <ul style="list-style-type: none"> わたしたちのまわりには様々な種類や形の自動車がある。 わたしたちは自動車を利用して生活している。 | <ul style="list-style-type: none"> 自動車のコマーシャルを視聴してどんな車が売られているか知る。 自分が車を購入するときどんな車がいいか選び、その選んだ理由を考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ※自動車のコマーシャルを編集して資料として見せる。 □いろいろなタイプの車を印刷したプリント ※各家庭でのインタビュー活動として聞いてくる視点を明らかにしておく。 | <ul style="list-style-type: none"> 家族とか友達とか旅行するとき車の中が盛り上がるから。 荷物がたくさん積めるのがいい。 | <ul style="list-style-type: none"> 荷物がいっぱい入るし、人もいっぱい入るのでおとく。広々としていてよい。 |
| ～家庭学習～ | | | | | ○各自、自分の家では車をどんな理由で購入しているか、調べてくる。 | | | 家庭での聞き取り調査 | |
| 2 | ○消費者が求めているのはどんな自動車か調べる。 | ◎ | | | <ul style="list-style-type: none"> わたしたちのまわりには様々な種類や形の自動車がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 各家庭ではどんな車を求めているか発表する。 持ってきた広告をもとに、自動車会社ではどんな車を作っているか調べる。 車のよさや特徴を発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> □自動車の広告 ※わからない言葉は説明を加える。 | <ul style="list-style-type: none"> お母さんたちはこんなにたくさん考えて買っていたなんてすごい。もし車を買うときはお母さんをみならおうと思った。 | <ul style="list-style-type: none"> 広告ののっている車を見て、現在の車はこんな性能があるなんてすごいと思った。 |
| 3 | ○自動車を観察して、どんな部品で組み立てられているか知る。 | ◎ | | | <ul style="list-style-type: none"> わたしたちのまわりには様々な種類や形の自動車がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 実際に車を観察してどんなよさや特徴があるか調べる。 自動車にはどんな部品があったか見つけてきたことを発表する。 見つけてきた部品と実際に使われる部品の大まかな数を比べてみる。 | <ul style="list-style-type: none"> □観察する自動車 ※車の内部、ボンネットをあけて自由に観察する。 ※子どもたちの質問に答える。 ※実際に使われている部品の数を提示する。 | <ul style="list-style-type: none"> 車の部品が2～3万なんてびっくりした。なぜこんなに部品を使わないと車にならないのか。ふしぎだ。 | <ul style="list-style-type: none"> 車の部品の数が2～3万もあるなんてびっくりした。なぜこんなに部品を使わないと車にならないのか。ふしぎだ。 |
| 4 | ○学習問題をつかみ、自分の調べたい課題を設定する。 | ◎ | | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>— 学習問題</p> <p>みんなに喜ばれる車を作るためにT自動車工業で働いている人たちはどんな工夫や努力をしているのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 調べる課題を決める。 課題1 どのようにして自動車はできあがるのか 課題2 部品工場はどのように部品を作っているのか 課題3 よりよい車をつくるためにどのように車を開発しているのか | <ul style="list-style-type: none"> ※今までの学習を通して課題を決める。 | <ul style="list-style-type: none"> 2～3万もある部品はどのように作られているのか。 どのように車は組み立てられていくのか。 工場はどんなところにあるのか。 自動車工場では何人ぐらい働いているのか。 | <ul style="list-style-type: none"> 部品はどのくらいの工場で作られているのか。 1台車を作るのにどのくらい時間がかかるのか。 自動車は作られたあとどこに運ばれるのか。その方法は。 | |

| | | | | | | | |
|-----|--|-----|---|---|---|--|--|
| | | | | <p>・課題4 できあがった車はどのようにして運ばれるのか。</p> | | | |
| 5・6 | ○自動車はどのように作られているかを調べ、工場働く人々の工夫や努力に気づく。 | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 組立ラインでは安全に作業できるように工夫している。 組立工場では正確に、効率よく作業するために工夫している。 消費者の注文に応じた自動車生産を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 課題1について調べる。どのようにして自動車はできあがるのか。 組立ラインの工夫 自動式搬送装置 作業ロボットが使用されている。 ボディカバーが車についている。 注文書が貼ってある。 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書、資料集、自分のもってきた資料 ※必要に応じて電話やファックスなど資料収集の方法を指導する。 ※資料収集で手紙の書き方、送り方を指導する。 自動車会社から送られてきた資料 | <ul style="list-style-type: none"> 組み立てる工場までロボットが活躍していた。ロボットはかかせないと思った。 正確に安全に作るにはロボットがないとできないが人にしかできないこともあった。 | <ul style="list-style-type: none"> ようせつをやっている写真を見てすごい複雑な機械がいっぱいあった。車を作るのはすごい大変だ。 安全を守るためにさくをたてたりいろいろ工夫をして作業の人の安全を守っていることがわかった。 |
| 7 | | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 自動車工場は部品を作る関連工場と協力して生産している。 関連工場では部品を期日、時間を守って製品を納めている。 | <ul style="list-style-type: none"> 課題2について調べる。部品工場はどのようにして部品を作っているか。 シート工場を調べる。 ジャストインタイム 作業の2交代制 コンピュータで注文する。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの質問に対する自動車会社からの回答 ※専門用語についてはわかりやすく説明する。 ※調べてわかったことについて情報交換タイムを設ける。 | <ul style="list-style-type: none"> シート工場でもロボットを使っているけれど、人による作業も多かった。 シート工場の工夫でそのまま運ぶのではなく、順番にシートを積む工夫には感心した。 | <ul style="list-style-type: none"> 最初に骨組みを作ってそれから布をはりつけてシートが完成することがわかった。 働く人の工夫はいっぱいあることがわかった。とても大変だと思った。 |
| 8 | | ◎ ○ | <ul style="list-style-type: none"> 安全性や環境に配慮した自動車を生産している。 | <ul style="list-style-type: none"> 課題3について調べる。よりよい車を作るためにどのように車を開発しているか。 安全に対する工夫 環境に対する工夫 人にやさしい工夫 | | <ul style="list-style-type: none"> 車にはいろいろな安全の工夫があり、その車を考えた人はすごいなと思った。 | <ul style="list-style-type: none"> ABSなどすごいハイテクな装置が車には使われている。 |
| 9 | | ◎ ○ | <ul style="list-style-type: none"> 自動車は船やトラックで消費地へ運ばれていく。 | <ul style="list-style-type: none"> 課題4について調べる。できあがった車はどのようにして運ばれるのか。 キャリアカー 自動車専用船 | | <ul style="list-style-type: none"> 場所によって車を運ぶ方法を変えていることがわかった。 | <ul style="list-style-type: none"> 船に自動車を積むとき車と車をぶつけないのは本当に大変そう。 |
| 10 | ○自動車工業における日本と外国の関係について調べる。 | ○ ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 生産された自動車は海外へ輸出されている。 日本は海外で自動車生産をしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 海外へ輸出される自動車について 輸出、輸入のバランス 自動車の海外生産の様子について調べる。 外国にある日本車工場の分布 | <ul style="list-style-type: none"> 自動車の輸出入のグラフ 海外にある自動車工場の分布図 | <ul style="list-style-type: none"> 日本の車は性能がいいから外国からも人気があるそう。日本車が売れてうれしい。 | <ul style="list-style-type: none"> 外国の人が困っていることを初めて知った。外国の車は日本でも買っているのに。 |
| 11 | ○自動車の役割やこれからの自動車について自分の考えをもつ。 | ○ ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 安全性や環境に配慮した自動車を研究開発している。 | <ul style="list-style-type: none"> どんな自動車の人々にとって必要なのか考える。 自動車が生活の中で果たす役割について考える。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分のワークシート 自動車会社からもらった資料 | <ul style="list-style-type: none"> これからも安全な車を作ってほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> ガソリンを使わずに走れる車がいっつかできるのは驚いた。 |
| 12 | ○学習のまとめとして今まで調べたことをもとに手紙を書く。 | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 自動車は生活や産業に欠かせないものである。 | <ul style="list-style-type: none"> これまで学んだことをもとに自動車工場に働いている人へ手紙を書く。 | <ul style="list-style-type: none"> ※これからの車作りや働く人の工夫や努力に対する自分の考えや願いを中心に書くように視点を与える。 | | |

V 自動車工業の学習の考察（3つの視点から）

1 児童とのつながり

児童とつながりのある自動車を取り上げることで学習問題をつかむ段階では、広告を見て車の種類や、よさ、特徴について調べる時、意欲的に家族にインタビューしたり、地域の自動車販売店に行って資料収集したりする姿が見られた。実際に自動車を観察する活動では自分の知らない部品について積極的に質問したり、部品の働きについても質問したりするなど、関心の高まりがみられた。以上のことから、興味をもてる、児童とつながりのある素材を教材化したことは、児童の課題意識を高めるために有効であったと考えられる。

2 働く人々の工夫や努力

「工場では車を買う人の注文にあわせて作業を分担し、傷ひとつつけないで車を作るなんてすごい。」「お年寄りや体の不自由な人でも乗れる車があることを初めて知りました。車はどんな人にも乗ってもらえるすごい乗り物だと思いました。」「これ以上空気を汚さないような環境に優しい車を買いたいと思います。」等の考えが工場働く人への手紙に表れていた。以上のことから、正確に作業を進めるための工夫や努力・消費者のニーズに応える人々の工夫や努力といった社会的事象の意味に迫ることができたと考えられる。

3 国民生活を支えている

児童は「完成した車はどこに、どうやって運ばれるか」という課題を調べる時「生産地から消費地まで」の過程には、貿易や運輸の働きと自動車工業とが関わっていることをとらえていた。また自動車の果たす役割についての話し合いでは「私たちの食べ物を運んできたり、自分の移動に使ったりする自動車は大切なものだ。」という意見をはじめ、「レタスやマグロを運ぶときも保冷車を使っていた。」など、前単元での学習を関連させて自動車の果たす役割に触れる発言もみられた。以上のことから、児童は、国民生活や他の産業と密接に関わっているという自動車工業のもつ意味に迫ることができたと考えられる。

VI 研究の成果と課題（3つの視点と教材化のプロセスについて）

1 研究の成果について

- 教材構造図を作成し、社会的事象の意味を考えるために必要な事実を抽出したことで、児童が独力で入手することが難しいと予想される資料については、あらかじめ教師が準備することができた。また児童につかませたい学習内容に必要な資料を、教師が、児童の実態に合わせて分かりやすく加工し、提示する支援ができた。これらのことにより児童は確かな事実理解を重ねることができ、社会的事象の意味をとらえることにつながった。
- 3つの視点を意識して指導計画を作成したことにより、実際の指導場面で、つかませたい学習内容に関する事実をおさえながら、助言したり、資料を提供したり、調べ方を示唆したりするなど、個々の児童に適切な支援を行うことができた。

2 今後の課題について

- 教材構造図の作成で、つかませたい学習内容に関わる事実を明らかにしたが、関連する事実は非常に多く、社会的事象の意味をとらえるためにはどの事実をもとに考えさせるのがより効果的か検討して、扱う事実を精選をする必要がある。

一人一人が社会的事象を多面的にとらえられる教材構成の工夫

I 主題設定の理由

児童が社会の担い手となって活躍する21世紀は、国際化・情報化が進み、現在以上に変化の激しい時代になることが予想される。こうした社会の形成者として、主体的に生きていく児童には、社会的事象を広い視野からとらえ、考えることのできる能力が求められるであろう。

したがって、これからの社会科学習においても、こうした能力を育てることが重要になってくると考えられる。このことは、学習指導要領第6学年の目標にも「社会的事象を具体的に調査し、地図や年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、社会的事象の意味をより広い視野から考える力を育てるようにする。」と明示されている。

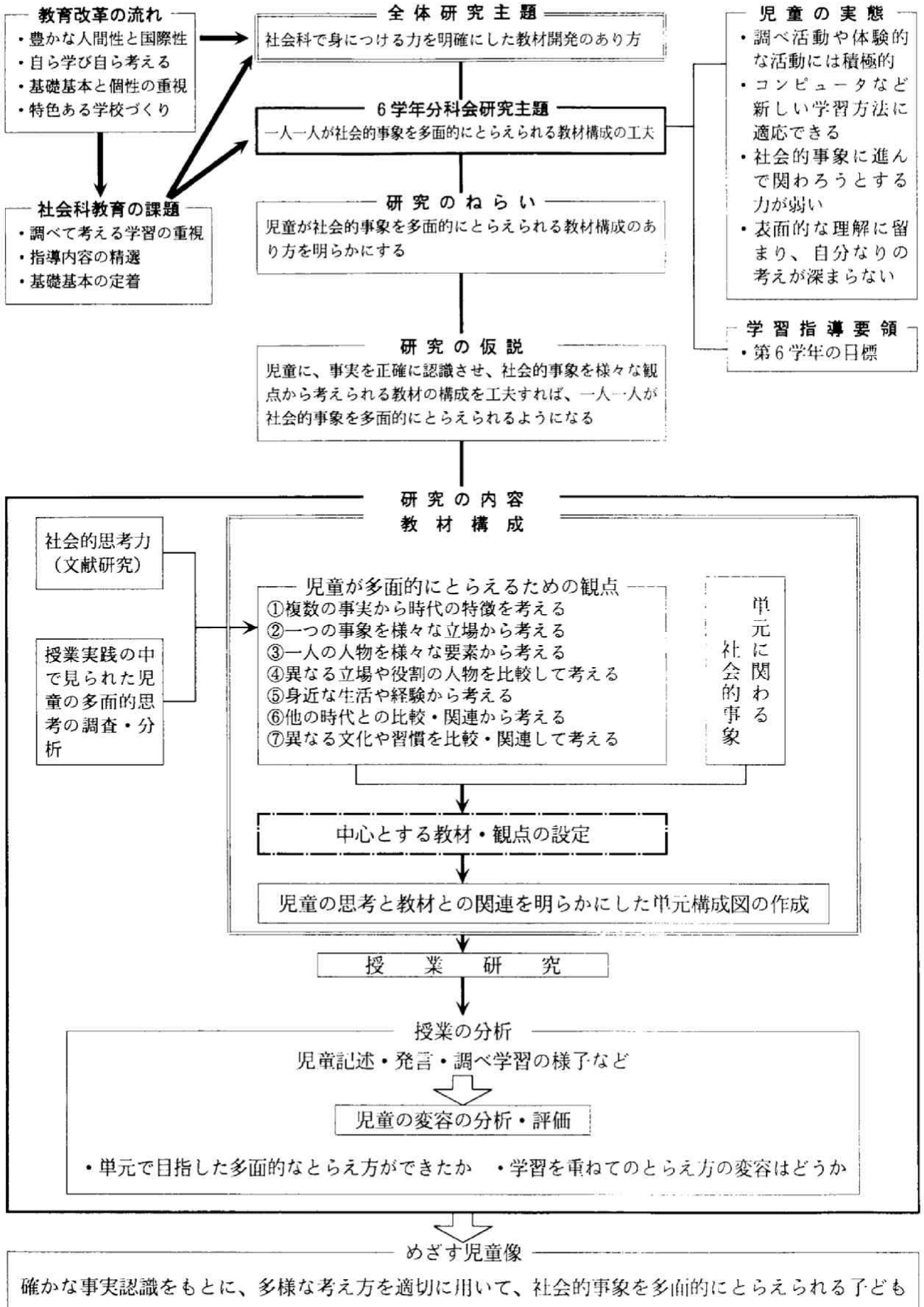
6年生の児童の実態を見ると、これまでの生活経験や社会科での体験的な活動や調べ活動などの学習を通じて、社会的な思考や判断の基準となるものの見方や考え方を、ある程度は身につけている。また、コンピュータやインターネットなどの情報機器を用いた新しい学習方法にも適応している。しかし、調べたり体験したりする活動は好むが、社会的事象に進んで関わろうとする力が弱く、その意味やつながりについての理解は、一面的・表面的なものに留まってしまい、自分なりの考えが広がらなかつたり深まらなかつたりするという現状がある。

これらの実態を受け本分科会では、児童の考えを広げるためには、児童自身がまず確かな事実認識を持つことが大切であると考えた。その上で様々な考え方を学び用いる経験を重ねていくことが必要であろう。そのような経験を重ねることで、児童は一つの事実を様々な視点から考えめぐらすことができるようになるのではないだろうか。

確かな事実認識に基づく多様な考え方を身につける学習を展開するためには、児童から多様な考え方を引き出せるように、教材となる社会的事象を分析し、その中からより有効な教材を選定し構成していくこと、またその考え方を年間を通して意図的に繰り返すことが大切になってくると考えた。それにより、児童は多様な考え方を適切に用いて、社会的事象を一面的ではなく多面的にとらえる事ができるようになってくのではないかと思われる。このことが広い視野からとらえたり考えたりすることにつながると考えた。

そこで、本分科会では、児童の多様な思考を促すために、社会的事象を多面的にとらえられることに重点を置いた教材構成の工夫を研究の中心として進めたいと考え、上記研究主題を設定した。

II 研究構想図



Ⅲ 研究の内容

1 多面的思考の分析

本分科会では多面的にとらえるとはどういうことか明らかにするため、児童の実態を分析した。実際に教材の構成を考える場合、児童の発達段階等をふまえ、実際に沿ったものにする必要があると考え、実際の授業での児童の記述（ノートやワークシート）を取り上げた。児童の記述から多面的にとらえていると思われるものを抽出し、分類するという方法を取り、その結果、以下の①～⑥の観点を設定した。①～⑥の観点は、歴史単元における多面的な思考の分析であり、政治、国際理解単元では⑦の観点が考えられる。

| 多面的思考の観点 | |
|----------|---|
| 根拠となった記述 | |
| ① | <p>複数の事実から時代の特徴を考える</p> <p>○源頼朝がめざしたのは、朝廷の力の及ばない鎌倉での政治を行い、有力な武上を守護・地頭に任命し、幕府の力を広げること。ご恩と奉公という関係による武士の強いつながりで政治を行う国だ。</p> <p>○徳川家光は大名に対しては配置を工夫し、武家諸法度、参勤交代をしてさからえないようにした。また外国に対しては鎖国令を出し、キリスト教信者には踏絵をしたりしてきびしく罰した。農民に対してはけいあんのお触れ書き、五人組などをやり、江戸幕府を長く続けた。 (波線部…事実)</p> |
| ② | <p>一つの事象を様々な立場から考える</p> <p>○参勤交代は、将軍の立場から見れば、信用できない外様大名に金を使わせ、また、人質をとって反抗できないようにする。大名の立場から見れば、費用もかかり自由もないので大変であった。 (将軍の立場と大名の立場)</p> <p>○聖武天皇は反乱やききん、えき病から、人々を救うために大仏を造ることを命じた。しかし、農民達は重い税や労働で苦しい思いをした。 (天皇の立場と農民の立場)</p> |
| ③ | <p>一人の人物を様々な要素から考える</p> <p>○織田信長は最初にポルトガルなどと貿易をして多くの鉄砲を輸入した。3000人の鉄砲隊を分けてかわるがわる撃たせたように戦いについてはとても頭がいいと思った。ただ、もう少し家康のように人の気持ちを理解して家来を大切にすることができるとよかったのになあ。 (3つの要素から考えた)</p> <p>○徳川家康が260年も続く幕府を開いたのはすごい。しかし、大阪の陣で相手は謝ったのに戦いに結びつけてしまうのは反対！ (2つの要素から考えた)</p> |
| ④ | <p>異なる立場や役割の人物を比較して考える</p> <p>○源頼朝は武士による政治をめざした。例えば平氏が中心だったときは平氏がきいていたから、今度は源氏が中心になったとき平氏と違い、みんなと協力して大きな力を手に入れようとした。平氏は天皇や貴族の中心だったから、今度は武士の国をめざした。 (源氏の立場と平氏の立場の比較)</p> <p>○織田信長は楽市楽座の制度、豊臣秀吉は黄金の茶室や大坂城、徳川家康は大名の配置がいいと思いました。3人とも政治家に向いている。 (織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の比較)</p> |
| ⑤ | <p>身近な生活や経験から考える</p> <p>○源頼朝が目指したのは、今の会社のような幕府をつくり武士中心の政治をつくること。平氏のように他の武士達を無視するのではなく、武士一人一人に役目のある政治にしたかったから。</p> <p>○貴族の生活はすごくぜいたくだと思う。昔の貴族達は娘を天皇と結婚させて自分の権力を強いものと思わせるために使っている。ひどいと思う。 (現在の自分の生活から考える)</p> |
| ⑥ | <p>他の時代との比較・関連から考える</p> <p>○徳川家康の天下取りは大成功。家康が活着している間は、幕府は滅びずに、次の世代、その次も他の大名の力を弱まらせ、以後260年も江戸幕府は続いたから。鎌倉、室町幕府と比べてとても長く続いた。 (江戸時代と鎌倉・室町時代との比較)</p> <p>○江戸時代は鎖国をして外国とは全然つきあっていなかったけれど、開国をし、どんどん外国とつきあっていき、文明開化などで洋風のをたくさん取り入れたから、こんなに時代が変わった。 (江戸時代と明治時代の比較)</p> |
| ⑦ | <p>異なる文化や習慣を比較して考える</p> |

上記の7つの観点うち、そのいずれかで思考ができることを多面的にとらえられるとするが、より多くの観点で思考ができることを、より多面的にとらえていると考える。

2 多面的思考と学習内容とのかかわり

次に、1で述べた多面的思考の観点に基づいて、各単元の学習内容を分析した。具体的には、学習指導要領に述べられている社会的事象について、教科書等で挙げられている事実や資料を加味して分析し、その単位ではどの多面的思考が導かれやすいのかを明確にした。年間を通じて、意図的・系統的に多面的思考力を培うために、7つの観点を繰り返し学習できるように配慮した。

<単元と学習させたい多面的思考>

| 単元別 学習内容 | 考え方 | ① 複数の事実から時代の特徴を考える | ② 一つの事象を様々な立場から考える | ③ 人の人物を様々な要素から考える | ④ 異なる立場や役割の人物を比較して考える | ⑤ 身近な生活や自分の経験から考える | ⑥ 他の時代との比較・関連から考える | ⑦ 異なる文化や習慣を比較して考える |
|-------------------|-----|--------------------|--------------------|-------------------|-----------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 農耕の始まり | | ○ | | | | ◎ | ◎ | |
| 古墳 | | ○ | ○ | | | | ◎ | |
| 大陸文化の摂取 | | ○ | | ◎ | | | | ○ |
| 大化の改新 | | | | | ◎ | | | |
| 大仏造営 | | | ◎ | | ◎ | | ○ | |
| 貴族の生活 | | | ◎ | ○ | | ◎ | ○ | |
| 源平合戦 | | ○ | | ○ | ◎ | ○ | | ○ |
| 鎌倉幕府の始まり | | ◎ | ○ | ○ | ○ | | ◎ | |
| 元との戦い | | ○ | ◎ | | | | ○ | ◎ |
| 室町文化 | | ◎ | | | | ○ | ◎ | |
| キリスト教の伝来 | | | ○ | | ◎ | | | ○ |
| 天下統一 | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | | | |
| 江戸幕府の始まり | | ○ | ◎ | ○ | | | ○ | ○ |
| 大名行列 | | | ◎ | | | | | |
| 鎮国 | | ○ | ◎ | | ○ | ○ | | |
| 歌舞伎や浮世絵 | | ◎ | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 国学や蘭学 | | ◎ | | | | | ○ | ○ |
| 黒船の来航 | | ○ | | | ○ | | ◎ | ○ |
| 明治維新 | | ○ | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | |
| 文明開化 | | ◎ | | ○ | | ○ | ◎ | |
| 自由民権運動と大日本帝国憲法の発布 | | ○ | ○ | | ◎ | ○ | ◎ | |
| 日清日露戦争 | | ◎ | ◎ | | ○ | ○ | | |
| 条約改正 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 科学の発展・様々な民衆運動 | | ◎ | | ◎ | | ○ | ○ | |
| 日中戦争と第二次世界大戦 | | ○ | ◎ | | | ◎ | ◎ | |
| 日本国憲法の制定と戦後の改革 | | ◎ | | | | ◎ | ◎ | |
| オリンピックと社会の変化 | | ◎ | | | | ◎ | ○ | |
| 国民生活と政治の働き | | | ○ | | | ◎ | ○ | |
| 日本国憲法と政治 | | | | | | ◎ | ◎ | |
| 世界の国々 | | | | | | ○ | | ◎ |
| 国際交流や国際協力・国際連合の働き | | ○ | | | | ◎ | ○ | |

◎……単元の学習を進める上で、中心として取り上げるとよいと思われる多面的思考
○……単元の学習を進める上で、取り上げられることが可能と思われる多面的思考

3 単元の教材構成

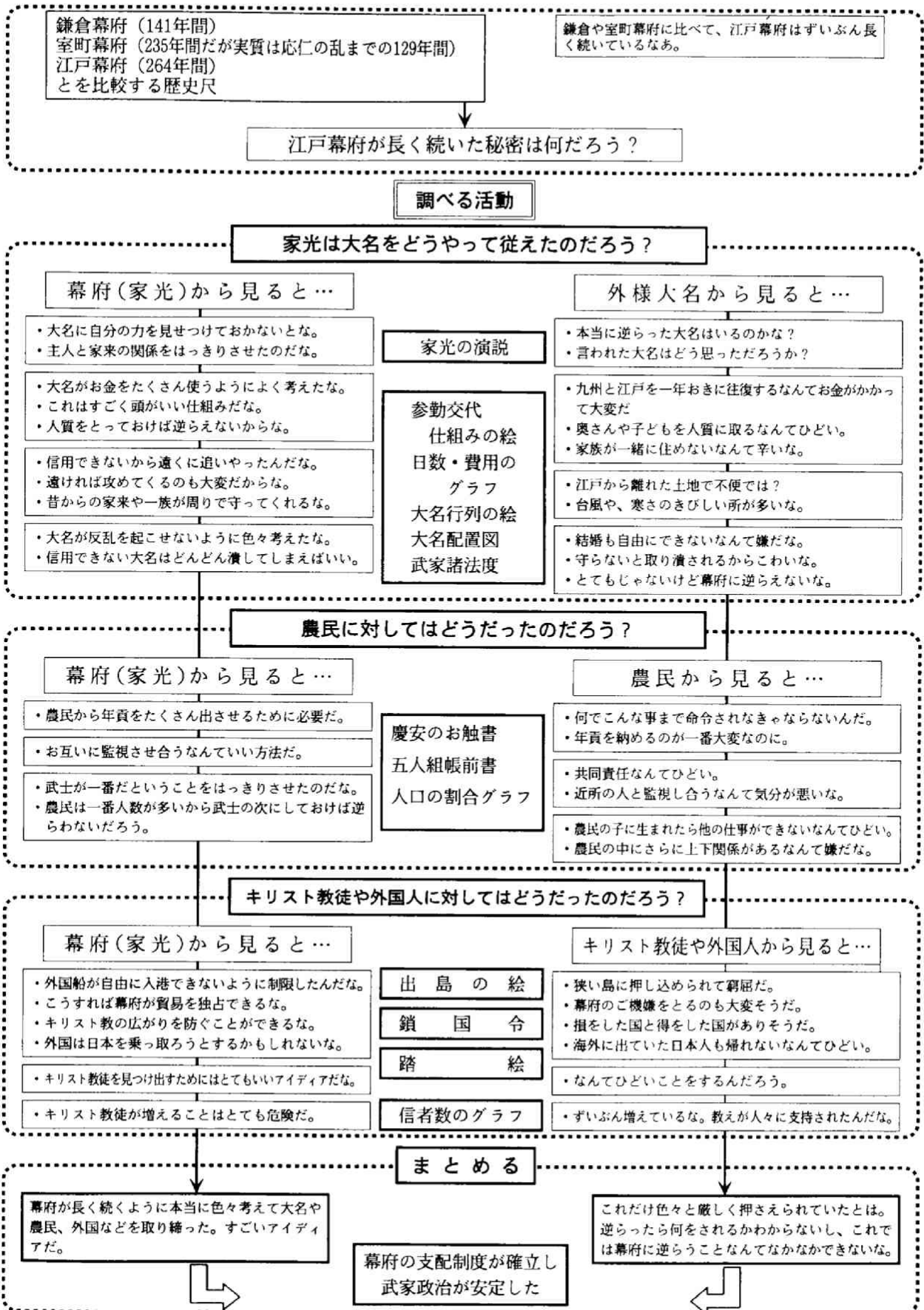
(1) 教材の選定にあたって

各単元で授業をするにあたり、中心となる多面的思考の観点に基づき、具体的におさえるべき社会的事象や事実、使用する資料等の分析・選定を行った。

(2) 単元構成図

選定した教材と思考との関わりが見えるように教材の配列を明示した単元構成図を作成した。

単元構成図(例)～観点②「一つの事象を様々な立場から考える」を中心に～家光と江戸幕府～



IV 実践事例「徳川家光と江戸幕府」

1 小単元のねらい

江戸幕府が支配体制を確立し武家政治を安定させるために行った政策を大名、外国、農民等の立場で考え、多面的にとらえることができるようにする。

2 学習計画と授業の実際

| 醒時 | ねらい | 主な学習活動と内容 | 資料 | 児童の記述例 | | | |
|-------------|--|--|---|---|--|--|--|
| つ か む | 江戸幕府が長く続いた事に気づき、既習の学習経験を生かしながらそのわけを予想することができる。 | ○鎌倉幕府、室町幕府、江戸幕府が続いた長さを比較する資料から学習問題を考える。 | ★幕府政権の長さの比較図 | <導入段階の記述例> ・ライバルを倒したから。 ・信長のように、戦法を工夫した。 ・家康がされたように人質をとっていうことを聞かせた。 ・前の時代のように大きな戦いがなかったから。 ・大名たちから信頼されるように工夫した。 ・頼朝と違って徳川家が長く続くように跡取を生み続けた。 ・キリスト教を保護して貿易を盛んにした。 | | | |
| | | 江戸幕府が長く続いた秘密を追究しよう | | | | ○長く続いた秘密を予想する。 | ○予想の内容を大名、外国、農民に対する秘密に分類する。 |
| 調 べ | 江戸幕府の大名政策について調べ、将軍の立場に立てることができる。 | 大名に対しての秘密を追究しよう! | ★家光の演説 ★参勤交代の仕組みの絵 ★日数費用のグラフ ★大名行列の絵 ★大名配置図 ★武家諸法度 | 将軍の立場 ・わしは、大名たちに自分の強さを分かってほしかったんだ。幕府に戦いを仕掛けてもよいと言ったので大名たちは幕府の方、つまり将軍の方が強いと思っているにちがいない。 ・大名たちは、一年交代で江戸に来なければならぬ。特に、外様大名は遠くから来る。そのためにはお金がかかる。確か二億かな? ほら、やっぱりお金がなくなると弱くなるだろう。 ・親藩、譜代を近くにおいて江戸の守りを固めたのじゃ。何しろ、外様のやつらは、いつ裏切るか分からぬ。遠くに置いたり、周りに、親藩、譜代をつけても少しやってもへんな動きがあったらすぐに取り潰してやる。 ・大名たちを法律で厳しく取り締まってわたしに反抗させないようにして、わたしだけどんどん強くなるのじゃ。これで徳川も安泰だ。 | 大名の立場 ・まったく頭に来る! あんな嘘っぱちな演説! かかってこいなんて言いながら実際は、かかっていけないようにしているじゃないか! 本当はいつでも攻めたいのに ・参勤交代なんて面倒だ。金がかかって本当に大変だ。家族は人質にとられ、一年ごとにしか一緒に生活できません。とてもつらい。 ・幕府が出した武家諸法度はつらい。城は、一つしかもてないし、「幕府を倒すのは禁止」なんて…城を勝手に直す事だてでできません。まったく! これでは、幕府の家来と一緒だ。 ・家光をみんなで組んで倒してみようと思っているんだが武家諸法度で「大名同士が手を組むことは禁止」という法律があるから倒そうにも倒せない。この世の中を変えてやりたい。 | | |
| | | ○大名政策について調べる。 | | ○資料を基にして予想を検証する。 | ○ワークシートにまとめる。 | ○調べた事をもとに大名政策を『将軍の立場』や『大名の立場』に立って考えグループで話し合う。 | ○ワークシートにまとめる。 |
| | | ○調べる事をもとに、農民政策を『将軍の立場』や『農民の立場』に立って考えグループで話し合う。 | | ○ワークシートにまとめる。 | ○調べた事をもとに、農民政策を『将軍の立場』や『農民の立場』に立って考えグループで話し合う。 | ○ワークシートにまとめる。 | ○調べた事をもとに、農民政策を『将軍の立場』や『農民の立場』に立って考えグループで話し合う。 |
| | | ○調べた事をもとに、農民政策を『将軍の立場』や『農民の立場』に立って考えグループで話し合う。 | | ○ワークシートにまとめる。 | ○調べた事をもとに、農民政策を『将軍の立場』や『農民の立場』に立って考えグループで話し合う。 | ○ワークシートにまとめる。 | ○調べた事をもとに、農民政策を『将軍の立場』や『農民の立場』に立って考えグループで話し合う。 |
| る | 江戸幕府の農民政策について調べ、将軍の立場や、農民の立場に立てることができる。 | 農民に対しての秘密を追究しよう! | ★慶安のお触書の内容 ★五人組帳前書き ★身分区別の模式図 | 将軍の立場 ・とにかく年貢がなければ大変なんだよ。それで私はこう考えた。そう、すべて年貢をとるためにまず百姓たちに法律を作ったのだ。朝早くおきて田や畑の仕事をせせせとして、贅沢をしないようにさせたんだ。 ・身分を決めさせて農家で生まれた者は一生農家で働け ・甘やかすすぎると仕事をしなくなるからかなり厳しく、寝るのにも惜しんで働くようにさせたのだ。年貢をきっちり払わないや | 農民の立場 ・『年貢さえ納めれば百姓ほど楽なものはない!』なんて…その年貢を納めるのが大変なんだ。他に必要経費や、村に税金だてで払わなくちゃならない。米一粒も残らない時だてである。 ・おいらはまじめに働いて、いつもちゃんと年貢を納めているんだ。でも五人組になってから一人のやつがおいらたちならちんたらやるもんだからおいらたちは、そいつの分までやることになるんだ!! まったく! 腹が立つ! | | |
| | | ○農民政策について調べる。 | | ○資料を基にして予想を検証する。 | ○ワークシートにまとめる。 | ○調べた事をもとに、農民政策を『将軍の立場』や『農民の立場』に立って考えグループで話し合う。 | |

| | | | | | |
|---|---|--|---|--|--|
| | | ○ワークシートにまとめる。 | | つがでてくると困るから五人組をつくり一人でも足りなかったら後の四人に払わせる。連帯責任で年貢は確実だ。 | ・おらは、年貢がつらくてひでよ。こっちは一生懸命頑張っているのに武士がおらたちの年貢米で生活しているなんて。つらくても、百姓は一生百姓だ。 |
| 調 | 江戸幕府の外国政策について調べ、将軍の立場やキリスト教徒・オランダ人の立場に立って考えることができる。 | <p>外国に対しての秘密を追究しよう！</p> <p>○外国政策について調べる。</p> <p>○資料を基にして予想を検証する。</p> <p>○ワークシートにまとめる。</p> <p>○調べた事を基に、外国政策を『将軍の立場』『キリスト教徒の立場』『オランダ人の立場』に立って考えグループで話し合う。</p> <p>○ワークシートにまとめる。</p> | <p>★出島の絵</p> <p>★鎖国令</p> <p>★踏絵</p> <p>★信者数のグラフ</p> | <p>将軍の立場</p> <p>・キリスト教宣教師の入国を手助けするポルトガル人を追い出してオランダ人を住ませた。まあ、狭い所で嫌な事もあるだろうけれど売上が上がるから逃げ出すはずはない。ワッハハハハ。</p> <p>・まったく、島原の乱では、ひどい目にあった。キリスト教は、幕府の敵だ。これ以上広まらないように鎖国じゃ！！</p> <p>・あの絵踏みは、効果抜群だ。誰がキリシタンかすぐわかる。長崎の人口が激減するくらい厳しく取り締まったのだ。</p> <p>・やはりキリシタンは手強い。どうしたらいいのか考えて絵踏みをさせたが、やつらは死を怖がらないのだ。どうしたらよいか…</p> | <p>出島のオランダ人の立場</p> <p>・家光様は偉い方だ。もし反抗したら、売上が悪くなるし…日本と仲良くしていれば売上はダントツになるし、ポルトガルなんかにかんない役目を渡してたまるか。</p> <p>・それよりもっとここにいたいって気持ちが高かったのは貿易ができるからだ。もちろん、他の国ともやっちはいるが長崎が一番利益が大きいからなんだよ。</p> <p>キリシタンの立場</p> <p>・私は、実は隠れキリシタンなんです。私の家族も、みんなキリスト教徒です。私の主人はきびしい年貢の取り立てに反抗して一揆を起こした仲間と一緒に火あぶりに…今は、祈るだけです。見つかったら殺されるでしょう。でもわたしは、死んでも、キリスト様の教えで天国にいけます。死ぬ事は、怖くありません。</p> |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| ま | 幕府の支配体制が確立した事をまとめ、自分の考えをもつことができる。 | <p>江戸時代が長く続いた秘密を、レポーターになってまとめよう。</p> <p>○これまで学習した事をレポーターのコメントとしてまとめる。(政策として効果的だった事を中心に)</p> <p>○まとめた事を話し合う。</p> | | <p>《まとめの記述例》</p> <p>・このようにして、大名に対しても、農民に対しても、外国人に対してもみな『きまり』で支配していきました。でもこの様に長く続けようと努力していた江戸幕府もいつかは滅びる日が来るでしょう。いったいどんな人が登場するのでしょうか。</p> <p>・「江戸時代」は、とにかく将軍が頭がよかったんだと思う。幕府の支配体制を徹底的にするとともに、年貢を少しでも多く納めさせるようにした。※貿易をじゃまされないように、キリスト教の布教をおさえるようにと、鎖国には二つの目的があった。これらの工夫がすべて成功したからだと思う。</p> <p>※幕府が貿易を独占するということ</p> <p>・つまり、江戸時代を長くして徳川の名を残したかったんですよ。だから、自分たちの敵になりそうな勢力には、とても厳しい態度でのぞんでいたのですね。わたしが一番心に残ったのは、年貢の事です。幕府は、年貢がなければどうしようもなかったのですね。強い幕府の力のもとが武力を持たない農民に支えられていたとは…驚きでした。</p> | |
| 9 | | | | | |
| め | | | | | |
| る | | | | | |

V 成果と課題 (○成果 ●課題)

- 中心となる多面的思考の観点を明確にし、それを基に単元構成図を作成して、教材構成することは、児童が社会的事象を多面的にとらえられるのに効果的であった。
- 立場を変えて考える学習(例 将軍と大名)、時代と時代を比較して考える学習(例 江戸と明治)等7つの多面的思考の観点を、経験させたり意図的に繰り返す学習を積み重ねたりすることにより、多面的思考を身につける児童が増えてきた。
- 児童の思考の分析を重ねていくことで、教材構成の基となる多面的思考の観点をより広げていく必要がある。
- 中心となる多面的思考を限定したことにより、他の多面的思考が出にくくなる可能性が考えられるので、中心となる多面的思考を置き換え、単元を再構成して実践する必要がある。

研究の成果と課題

<研究の成果>

- 児童に培いたい「地域観」を8項目選定し、各単元での目指す「地域観」を明確にして働きかけたことにより、地域を身近なもの、自分とかかわりのあるものとしてとらえることができるようになり、地域の見方や考え方の変容が見られた。
- 自分たちの住んでいる地域の概念を基にして、他の地域との関連やつながりを見つめられるようになり、地域の見方や考え方が深まった。
- 「地域観」を培う「教材開発の4つの観点」を設定することにより、指導計画作成にあたって教材の選定をする際の基準が明確になった。
- 教材選定の段階に3つの視点を取り入れることにより、つかませたい学習内容が明らかになり、児童が主体的に学び社会的事象の意味を考えるために有効な教材が選定できた。
- 教材構造図の作成では、社会的事象の意味を考えるために教材選定で抽出されたつかませたい学習内容と事実を結びつけることで、児童が何を調べ、それによってどんなことを考えられるのかを関連づけることができた。
- 教材構造図に表したつかませたい学習内容をもとに指導計画を作成することにより、児童がどんな社会的事象をとらえながら学習を進めているかが明らかになり、確かな事実理解が進められるようになった。
- 中心となる多面的思考の観点を明確にし、それを基に単元構成図を作成して、教材構成することは、児童が社会的事象を多面的にとらえられるのに効果的であった。
- 立場を変えて考える学習、時代と時代を比較して考える学習等7つの多面的思考の観点を、経験させたり意図的に繰り返す学習を積み重ねたりすることにより、多面的思考を身につける児童が増えてきた。

<今後の課題>

- ・「地域観」が培われたかどうかは、学習のまとめの記述や児童のつぶやき、行動で見とることとしたが、単元の学習終了後に「地域観」に関わる児童の言動が見られることも多く、見とりの時期や予想が難しい。支援、評価について今後も研究を深めていきたい。
- ・作成した教材を、指導計画や学習過程のどの場面に位置づけるとより有効であるかを探ることは、今後とも必要である。
- ・教材構造図の作成で、つかませたい学習内容に関わる事実を明らかにしたが、関連する事実は非常に多く、どの事実をもとに考えさせるのがより効果的か検討して、扱う事実を精選する必要がある。
- ・児童の思考の分析を重ねていくことで、教材構成の基となる多面的思考の観点をより広げていく必要がある。
- ・中心となる多面的思考を限定したことにより、他の多面的思考が出にくくなる可能性が考えられるので、中心となる多面的思考を置き換え、単元を再構成して実践する必要がある。